

Title	史學會會報
Sub Title	
Author	飯田(lida)
Publisher	三田史学会
Publication year	1923
Jtitle	史学 Vol.2, No.2 (1923. 2) ,p.97(257)- 97(257)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19230200-0099

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

ぬ。

民謡が傳説に比して古代生活の痕迹を保有してゐること、今日
童兒の戯歌と化してゐるものでもその原始に遡れば魔術的宗教的
のものなりしことは此處にわざ／＼述べる必要を見ないであら
う。而も歌謡は民話よりも一層採集が困難であり、節を離れて記
録のみによつて表はせば一般人に對して比較的興味が薄いため今
までその採集は割合に等閑視されてゐたのである。けれどもその
缺陷が今や本篇を先頭として今後續々現はるべき爐邊叢書中の民
謡研究の諸篇によつて補はるれば誠に民俗學のために大慶である
と云はればならぬ。

予の知人の一佛國學生が今日本の歌垣、禰歌の事を熱心に研究
し此歌垣禰歌の際に歌はれた歌謡を採集することを遙々依頼して
來てゐる。然しながら云ふまでもなく此等の習俗は原始日本の遺
物であつてその歌は今は風土記や萬葉集にごく僅少残つてゐるの
みに過ぎない。もう今日に於ては此貴重な民衆の歌謡は到底手に
入れることは出来難いのである此學生は恐らく此等歌謡を通じ、
歌垣かゞひの眞性質を究め、我國古代の社會及び宗教思想を尋
ねんとしてゐるのであらうがその困難は察するにあまりある、今
日の吾々が又現存民謡の採集を怠ると數世紀後の同方面研究者を
して此異國の人の嘗めしが如き困難を味はしむべきではなからう
か。吾人は我日本各地の民間傳承、其中でもことに失はれやすい
歌謡をなるため今の内に記録し置かむことを各地の郷土研究者に
切に希望するものである。(松本信廣)

史學會會報

(神宮皇學館
史學會發行)

大正十年十月二十二日開會式を擧げ、神宮皇學館歴史科を中心
に史學研究を目的として組織せられたる神宮皇學館史學會にては
昨大正十一年六月に至る迄、例會を催す事前後七回に及び、其間
或は伊勢壹志郡に或は飯南郡に史蹟實地踏査を行ひ來りたるが、
更に同七月下旬に及びて機關誌『史學會々報』を創刊するの發展を
見たり。同會報は毎年春秋二回發行の由なるが創刊號には大西源
一氏の「伊賀に於ける大神宮領について」、木村春太郎氏の「春日
社時代祭に就きて」、竹島寛氏の「王朝時代史話」、阪本廣太郎氏の
「齋宮寮の經濟一斑」、千田憲氏の「吉野水分神社考」、磯部精一氏
の「アイヌ民族に就きて」、福田福一郎氏の「縣大養宿禰橋三千代
に就いて」等の諸論篇を收む。尙な眞面目なる研究なるは大に喜
ぶべし、謹んで將來を祝福す。(飯田)

銀行會館なる名辭が約二百年前支那に存せ

し事實の發見

(武藤長藏著、長崎高等商業學校
研究館年報第三册別刷)

武藤氏は數年前國民經濟雜誌に「銀行なる名辭の由來に就て」と
題する論文を發表せられ、其後も絶えず此の問題に留意して居ら
れたやうであつたが。昨年八月、南清旅行の途次、特に之に關す
る資料を採集せんが爲、廣東に到つて、銀號の組合たる銀業行忠